

学習会の様子

第1回 2004.10.30

『九条の会』発足記念講演会の記録ビデオを見る会

成城地域九条の会発足

話題を読んだ9氏による「九条の会」が発足し、その時の模様を是非知りたいという声が8月の或る集会で出ました。記録ビデオテープを入手し、観る会を計画したことが成城地域「九条の会」(のちに「成城・祖師谷九条の会」と改称)の発足となりました。

その集會に寄せられたアンケートには「會が発足してよかった」「九条を広げるには何をしたらよいか」「集會での若者の発言がよかった」また「憲法の勉強会をしてほしい」などの声が多くありました。

「會」は9氏のアピールをひろげること、九条を中心に勉強を重ねることを当面の活動とすることを決めました。

第2回 2005.2.6

憲法九条講演と交流の集い「憲法九条は世界市民のねがい」

講師 佐々木 隆爾 氏(日本大学教授)

ハーグ平和アピール市民會議(1999年5月)は「10の基本原則」の第一に「各国議會は、日本國憲法9条のように、政府が戦争をすることを禁止する決議を採択すべきである」ことをあげ、全世界に訴えた。

第3回 2005.5.29

憲法九条講演と交流の集い

「自衛隊の軍事力と憲法九条」

講師 山田 朗氏(明治大学教授)

日本の自衛隊は「異常な軍事力」を備えた違憲の存在。既成事実のあとで法律がつくられ、戦争容認の価値観が社会に入ってくる。平和勢力の抵抗・反撃の拠点は、教育基本法と憲法九条にもとづく民意の形成。

第4回 2005.8.28

「ヒロシマと憲法九条」

講師 小西 悟 氏(日本原水爆被害者団体協議会事務局次長)

自ら被爆し、直後の惨状を目にしたショックの凄まじさに、それから自宅にたどり着くまでのすべての記憶を奪われてしまった。『地獄』を生み出す絶滅兵器。人間を殺人マシーンにさせる戦争を、どんな口実であっても起こさせてはならない。

憲法九条は歴史教訓と戦争体験が生み出した宝物だ。

第5回 2005.11.23

映画と話し合い

映画『陸軍』原作:火野葦平、監督:木下恵介

主演 田中絹代 笠智衆 上原謙

昭和19年、戦時言論統制ことに軍の厳しい検閲下でありながら、戦争への異議申し立てを果敢にそして巧みに描きこんだ名作。

21世紀の観客に、戦争、中でも日本のアジア太平洋戦争を振り返らせ考えさせる。

第6回 2006.3.21

「太平洋戦争は『自存自衛』の戦争か」

講師 山田 朗 氏(明治大学教授)

前回上映した映画「陸軍」を觀賞後、皆さんから「なぜ開戦に踏み切らなければならなかったのか知りたい」という要望に応じて再び山田先生にお願いした。

当時の弱小国への利権獲得戦争に走り出した無謀ともいえる開戦の実態が明らかになった。

第7回 2006.5.20

遊就館見学

～バスツアー～ガイド 東海林 次男 氏(歴史教育者協会常任委員)

山田朗氏の講演「太平洋戦争は『自存自衛』の戦争か」をあたかも検証するような遊就館の展示だった。

ガイド役の東海林氏の的確な説明で、参加者一同、いっそう歴史認識が深まったのではないかと思います。

第8回 2006.8.1

映画鑑賞と懇話会

「蟻の兵隊」と懇話会

渋谷のシアター・イメージフォーラム

その後佐々木繁男氏を囲んで懇話会

終戦後も中国に残留させられ中国内戦を戦った元兵士の悲しみと憤りの日々を記録したドキュメンタリー。戦争の非情・理不尽・民の悲劇が観るものの胸を打つ。

第9回 2006.9.8

佐々木繁男さんを囲む懇話会

熱のこもったお話に時間が足りず、「もう少し延長したい」「もう一度ぜひ聞きたい」という声があがったことへのアンコール学習会として行った。あらためて戦争の悲惨を勉強できた。

人間(兵士)を殺人マシンに仕立て上げる軍隊。殺人が手柄になる戦争を実感できた。

第10回 2006.11.25

マスコミ報道と憲法九条

講師 市川 隆太 氏(東京新聞「こちら報道部」の記者)

当時、国会審議中の「共謀罪法案」が持つ大変危険な内容をやさしく解説。第一線で活躍中の記者の目から見たメディアの現状も有益な話だった。

第11回 2007.2.24

ほんとうに憲法「改正」していいのか

講師 小沢 隆一 氏(憲法研究者・九条の会事務局 慈恵医大教授憲法学)

憲法学者である小沢氏からお話を伺って日本国憲法を学びかえした。世界史的に見ても、また21世紀の世界平和を築くためにも、九条の持つ意味・役割は大きい。

第12回 2007.5.20 映画鑑賞と懇話会

「戦争しない国日本」

監督 片桐直樹

講師 大澤 豊 氏(映画監督・「日本の青空」監督)

日本国憲法とその平和主義をめぐる規定が、なぜどのように誕生したのか、日本と国際社会に果してきた役割、日本国民の中にどのように生きついできたのか…を戦前(1930年代)からの歴史をたどりながら映像によって検証するドキュメンタリー映画。大澤さんは、改憲圧力が強まってきている現状に警鐘を鳴らし、憲法を守る国民の声と活動を強めて行こうと呼びかけた。

第13回 2007.12.1

今どうなっている?! 改憲の動き

講師 保坂 展人 氏(衆議院議員・当時)

改憲発議まで3年をきったいま、国民投票法は動き出しているのか、国民の見えないところで何かが動いているのか。具体的な活動例を入れながら、元気にわかりやすく話してくれた。

第14回 2009.6.9

海賊対処派兵法と北朝鮮問題

講師 小沢 隆一 氏(慈恵医科大学教授・九条の会事務局)

日本の商船を海賊から守るという名目で作られたこの法律は、海外派兵法であり違憲であると指摘。また、北朝鮮には軍事力で対抗すべきという世論の声が高くなるなか、知られざる朝鮮問題を歴史的にひもとき、その解決策を示唆。

第15回 2010.4.18

私は従軍看護婦だった

語り手 河合 信子 氏

戦後65年、戦争を知らない世代が増えている。また、戦争の悲惨さを次代に語り伝える方が少なくなっている。従軍看護婦としての自らの体験を語り、憲法九条の大切さを訴える。

第 16回 2011.10. 2.1

「沖縄の海兵隊は日本を守ってくれるのか！？」—「抑止力」ってなに？

講師 松竹 伸幸 氏 (ジャーナリスト)

「米海兵隊は必ずしも抑止力として沖縄に存在する理由にはならない」と語った元鳩山首相は、発言直後に首相の座をおりた。“沖縄問題”がクローズアップされたこの時期に、ジャーナリストとして活躍中の松竹氏を招き、沖縄、基地、海兵隊について語り合った。

第 17回 2011.10. 2.1

「原発と憲法を考える」

講師 平井 正 氏 (憲法会議 事務局長)

民主党政権下3. 11原発事故発生。憲法で国民をどう守るかが課題であったが、野田総理は「原発ゼロ」を云えない。前文「平和的生存権」第 13 条「生命、自由及び幸福追求の権利」第 25 条を生かすたかひを。憲法会議事務局長・平井さんは怒りをこめて、子どもたちに残せるものは何かを訴える。

第 18回 2011.12.8 見学会

明治大学生田キャンパス内旧陸軍登戸研究所見学

図らずも太平洋戦争開戦の日、参加者 20 人で小田急線生田駅から丘の上に建つ明治大学平和教育登戸研究資料館を訪れた。保存を求める川崎市民の方々の努力と明大との連携で整備され現在公開されている。

一室毎に秘密兵器の薬物、盗聴器、防諜器具等の展示や解説、当時の風船爆弾がここでつくられていた事、また経済を攪乱する目的の中国紙幣の偽札作り等、戦争の愚かさを益々増幅した見学会だった。現在も原爆を始めとする様々な兵器が存在している。

世界は平和への流れに向かわなければの思いを一層強くした。

第 19 回 2012.5.20

子どもたちにいま何が残せるのか～知る権利&言論の自由の大切さ

《子ども・教育・憲法》

講師 土肥 信雄氏(都立三鷹高校元校長) 大嶽 昇一氏(世田谷区立小学校教員)
高橋 拓也氏(弁護士)

現役時代からテレビなどでも紹介された土肥元校長と現職の大嶽教諭が、いま教育現場から言論の自由がなくなりつつあることを、実際のいくつかの例をあげて報告された。職員会議は教育を話し合う場所ではなく上からの通達の間場となっている、職務命令として思想調査、「君が代」斉唱は口のあけ方まで監視するなど、戦前の教育と同じだと告発。さらに高橋弁護士からは憲法21条——言論の自由が脅かされている現実、九条の改憲につながる危険な動きであることを知らせなければいけないとの訴えがあった。

第 20 回 2012.10.14

上映会「フクシマの嘘」(ドイツ国営放送 2012 年3月8日放映)

「10 万年後の安全」(2010 年パリ国際環境映画祭グランプリ 他賞多数)

★提言高岡岑郷氏

①ドキュメンタリー番組「フクシマのウソ(原題:Die Fukushima Lüge)」

ドイツの国営放送 ZDF が製作。監督を務める ZDF 特派員であるヨハネス・ハーノ記者が外国人と見破られないよう防護服を着込み、福島立ち入り禁止区域に潜入し取材した番組。また、関係者へのインタビューの映像では日本全体にはびこる「原子カムラ」による圧力の実態も語られている。元首相の菅直人氏も登場。

②ドキュメンタリー映画「10 万年後の安全」

フィンランドでは地下 500m に高レベル放射性廃棄物の最終処分場{名前は「オンカロ」(隠し場所)}を建設中。

映画は処分場の建設模様と、廃棄物が無害になるとされる 10 万年後までに安全に保管できるか、専門家たちの「隠し方」についての議論を紹介している。